

## 2021 年度 創価大学法科大学院

### B 日程 小論文審査

#### 問題 1 (配点 50 点)

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

二〇一六年の世界は、個人主義と人権と民主主義と自由市場という自由主義のパッケージに支配されている。とはいえ、二一世紀の科学は、自由主義の秩序の土台を崩しつつある。科学は価値にまつわる疑問には対処しないので、自由主義者が平等よりも自由を高く評価するのが正しいのかどうか、あるいは、集団よりも個人を高く評価するのが正しいのかどうかは判断できない。一方、自由主義も他のあらゆる宗教と同じで、抽象的な倫理的判断だけではなく、自らが事実に関する言明と信じるものにも基づいている。そして、a そうした事実に関する言明は、厳密な科学的精査にはとうてい耐えられないのだ。

自由主義者が個人の自由をこれほど重視するのは、人間には自由意志があると信じているからだ。自由主義によれば、有権者や消費者の決定は、必然的に規定されている決定論的なものでもランダムなものでもないという。人はもちろん外部の力や偶然の出来事の影響を受けるが、けっきょくは、一人ひとりが自由という魔法の杖を振るって、物事を自分で決められる。だから自由主義は有権者や消費者にこれほどの重要性を与え、心の命じるままに従い、良いと感じられることをするように指示する。森羅万象に意味を与えるのは私たちの自由意志であり、他人は私たちが本当はどう感じているかを知ったり、何を選ぶかを確実に予測したりすることはできないので、ビッグ・ブラザー〔訳註 ジョージ・オーウェルの『一九八四年』に登場する全体主義国家の独裁者〕の類に頼って、自分の関心や欲望の面倒を見てもらおうなどとするべきではない。

人間には自由意志があると考えるのは、倫理的な判断ではない。それはこの世界について事実に関する記述だと称される。このいわゆる事実に関する記述は、ジョン・ロックやジャン＝ジャック・ルソーやトマス・ジェファーソンの時代には道理に適っていたかもしれないが、生命科学の最新の発見とは相容れない。自由意志と現代の科学との矛盾は研究室の持て余し者で、多くの科学者はなるべくそれから目を逸らし、顕微鏡や fMRI スキャナーを覗き込むばかりだ。

一八世紀には、ホモ・サピエンスは謎めいたブラックボックスさながらで、内部の仕組みは人間の理解を超えていた。だから、ある人がなぜナイフを抜いて別の人を刺し殺したのかと学者が尋ねると、次のような答えが受け容れられた。「なぜなら、そうすることを選んだ

からだ。自分の自由意志を使って殺人を選んだ。したがって、その人は自分の犯罪の全責任を負っている」。ところが二〇世紀に科学者がサピエンスのブラックボックスを開けると、魂も自由意志も「自己」も見つからず、遺伝子とホルモンとニューロンがあるばかりで、それらはその他の現実の現象を支配するのと同じ物理と化学の法則に従っていた。今日、ある人がなぜナイフを抜いて別の人を刺し殺したのかと学者が尋ねたときには、「なぜなら、そうすることを選んだからだ」という答えは通用しない。代わりに、遺伝学者や脳科学者はもっとずっと詳しい答えを与える。「その人がそうしたのは、脳内のこれこれの電気化学的プロセスのせいであり、それらのプロセスは特定の遺伝的素質によって決まり、その素質自体は太古の進化圧と偶然の変異の組み合わせを反映している」

殺人につながる脳の電気化学的プロセスは、決定論的か、ランダムか、その組み合わせのいずれかだ。だが、けっして自由ではない。たとえば、ニューロンが発火するとき、それは外部の刺激に対する決定論的な反応か、ことによると、放射性元素の自然発生的な崩壊のようなランダムな出来事の結果かもしれない。どちらの選択肢にも、自由意志の入り込む余地はない。先行する出来事によってそれぞれ決まる生化学的な出来事の連鎖反応を通して行き着いた決定は、断じて自由ではない。原子内部でランダムに起こる偶然の出来事から生じる決定も、自由ではなく、ただランダムなだけだ。そして、ランダムに起こる偶然の出来事が決定論的なプロセスと組み合わせると、確率的な結果が得られるが、これも自由には相当しない。

放射性のウランの塊につないだ中央処理装置を持つロボットを作るとしよう。右のボタンを押すか左ボタンを押すかといった、二者択一の場合には、そのロボットは選択前の一分間に崩壊したウラン原子の数を数える。それが偶数だったら右のボタンを押す。奇数だったら左のボタンを押す。そのようなロボットの行動は予測がつかない。だが、そのロボットが「自由」だと言う人はいないだろうし、そのロボットに民主的な選挙で投票させたり、その行動に法的責任を負わせたりすることなど、私たちは夢にも思わないだろう。

私たちの科学的理解が及ぶかぎりでは、決定論とランダム性がケーキを山分けしてしまい、「自由」の取り分は一かけらすら残っていないようだ。じつは、「自由」という神聖な単語は、まさに「魂」と同じく、具体的な意味などまったく含まない空虚な言葉だったのだ。自由意志は私たち人間が創作したさまざまな想像上の物語の中にだけ存在している。

自由へのとどめの一撃を加えたのは進化論だ。進化論は不滅の魂と折り合いをつけることができないのと同じで、自由意志という概念も受け容れることができない。もし人間が自由だとすれば、自然選択が人間の進路を決定することなど、できたはずがないではないか。進化論によれば、住み処、食物、交尾相手など、何についてであれ動物が行なう選択はみな、自分の遺伝子コードを反映しているという。ある動物が、環境に適応した遺伝子のおかげで、栄養のあるキノコを食べ、健康で多産のメスと交尾することを選べば、その遺伝子は次の世代に受け継がれる。環境に適応していない遺伝子のせいで、毒キノコを食べ、元気がないメスと交尾することを選択すれば、その遺伝子は途絶える。ところが、もし動物

が、何を食べ、誰と交尾するかを「自由に」選んだら、自然選択には出る幕がない。

人はこのような科学的説明を突きつけられると、しばしばそれを軽くあしらい、自分は自由だと感じていることや、自分自身の願望や決定に従って行動していることを指摘する。それは正しい。人間は自分の欲望に即して振る舞う。もし「自由意志」とは自分の欲望に即して振る舞うことを意味するのなら、たしかに人間には自由意志がある。そして、それはチンパンジーも犬もオウムも同じだ。オウムのポーリーは、クラッカーが欲しければクラッカーを食べる〔訳註 ポーリーは英語圏でオウムによくつける名前。「ポーリーはクラッカーが欲しい」はオウムなどに教える決まり文句〕。だが、肝心の疑問は、オウムや人間が内なる欲望に従って行動できるかどうかではなく、そもそもその欲望を選ぶことができるかどうか、だ。なぜポーリーはキュウリではなくクラッカーが欲しいのか？ なぜ人は疎ましい隣人を大目に見る代わりに殺すことに決めるのか？ なぜ黒ではなく赤い自動車をこれほど買ったがるのか？ なぜ共産党ではなく自由民主党に投票したいと思うのか？ 人はこれらの願望の一つとして自分では選んでいない。特定の願望が自分の中に湧き上がってくるのを感じるの、それが脳内の生化学的なプロセスによって生み出された感情だからだ。そのプロセスは決定論的かもしれないし、ランダムかもしれないが、自由ではない。

少なくとも、隣人を殺すとか、政府を選出するとかいった重大な決定の場合には、私の選択は東の間の気持ちを反映してはおらず、あれこれ有力な考えを時間をかけて注意深く検討した結果だ、と応じる人もいるかもしれない。ところが、人がたどりうる思考の路線はたくさんあり、そのなかにはその人に、自由民主党に投票させるものもあれば、公明党に投票させるもの、さらには共産党に投票させるもの、自宅にとどまらせるものもある。他の思考の路線ではなく、その路線を私たちに取らせるものは何なのか？たとえて言えば、脳内の東京駅で、人は脳の決定論的なプロセスによって特定の思考の路線を走る列車に乗り込まれるのかもしれないし、ランダムに路線を選んで列車に飛び乗っているだけなのかもしれない。だが私たちは、自分に共産党に投票させる思考の路線に乗ることを「自由に」選んではいない。

これはたんなる仮説でもなければ哲学的な推量でもない。今日私たちは脳スキャナーを使って、人が自分の欲望や決定を自覚する前に、その欲望や決定を予測することができる。その種の実験の一つでは、参加者は両手に一つずつスイッチを握った状態で巨大な脳スキャナーの中に入れられる。そして、いつでもその気になったときに二つのスイッチのうちの一つを押すように言われる。脳の神経活動を観察している科学者は、参加者が実際にスイッチを押すよりもずっと前に、そして、本人が自分の意図を自覚する前にさえ、どちらのスイッチを押すかを予測できる。その人の決定を示す脳内の神経の活動は、本人がこの選択を自覚する数百ミリ秒から数秒前に始まるのだ。

右か左のスイッチを押す決定は、たしかにその人の選択を反映している。とはいえ、それは自由な選択ではない。じつは、私たちが自由意志の存在を信じている原因は、誤った論理にある。生化学的な連鎖反応のせいで私が右のスイッチを押したくなったとき、私は自分が

本当に右のスイッチを押したいと感じる。そして、それは正しい。私は本当に右のスイッチを押したいのだ。とはいえ人は、もし私が右のスイッチを押したいのなら、私はそう望むことを選んだという結論に、誤って飛びついてしまう。この結論はもちろん間違っている。私は自分の欲望を選ぶことはない。私は欲望を感じ、それに従って行動するにすぎない。

それにもかかわらず、人が自由意志について論じ続けるのは、科学者までもが時代後れの神学的概念を相変わらず使っていることがあまりに多いからだ。キリスト教とイスラム教とユダヤ教の神学者は何世紀にもわたって、魂と意志との関係について議論してきた。彼らはどの人間にも魂と呼ばれる内なる本質があり、それがその人の真の自己だと決めてかかっていた。さらに、この自己は、衣服や乗り物や家を所有しているのとまったく同様に、さまざまな欲望も持っていると言われ、彼らは主張した。私は自分の服を選ぶのと同じように自分の欲望を選び、私の運命はこうした選択によって決まるというわけだ。もし、善い欲望を選べば、私は天国に行かれる。もし悪い欲望を選べば、地獄に墮ちることになる。そこで出てきたのが、私は厳密にはどのようにして自分の欲望を選ぶのかという疑問だ。たとえば、イヴはなぜ、ヘビが差し出した禁断の果実を食べたいと思ったのか？ この欲望は、押しつけられたものなのか？ まったくの偶然で彼女の頭に浮かんだのか？ それとも、彼女は「自由に」その欲望を選んだのか？ もし自由に選ばなかったのなら、なぜ罰せられたのか？

ところが、魂など存在せず、人間には「自己」と呼ばれる内なる本質などないことをいったん受け容れてしまえば、「自己はどうやって自らの欲望を選ぶのか？」と問うことは、もう意味を成さなくなる。それは、独身男性に「奥さんはどうやって自分の服を選ぶのか？」と問うようなものだ。現実には意識の流れがあるだけで、さまざまな欲望がこの流れの中で生じては消え去るが、その欲望を支配している永続的な自己は存在しない。だから、私は自分の欲望を決定論的に選んだのか、ランダムに選んだのか、自由に選んだのかと問うても意味がないのだ。

この考え方はやたらに込み入っているように見えるかもしれないが、意外なほど簡単に検証できる。今度何か考えが頭に浮かんだら、そこで立ち止まって自問してほしい。「なぜこの考えを思いついたのか？ 一瞬前にこの考えを思いつくことにして、それからようやく思いついたのか？ それともこの考えは、私の指示も許可もまったくなしに、自然に湧いてきたのか？ もし私が本当に自分の考えや決定の主人なら、これから一分間、何も考えないことにできるだろうか？」試してみて、どうなるか確認するといいい。

自由意志の存在を疑ってみるのは、ただの哲学的演習ではない。そこには実際的な意味合いもある。もし本当に生き物に自由意志がないのなら、それは私たちが薬物や遺伝子工学や脳への直接の刺激を使って生き物の欲望を操作し、意のままにさえできることを意味する。

もし哲学が実地に試されているところを見れば、ロボラットの研究室を訪ねるといい。ロボラットはありきたりのラットに一工夫加えたもので、脳の感覚野と報酬領域に電極を埋め込まれている。そのおかげで、科学者はリモートコントロールでラットを好きなよう

に動かせる。彼らはラットに短時間の訓練をさせてから、右や左に曲がらせるだけではなく、梯子を上らせたり、生ゴミの山の臭いを嗅ぎ回らせたり、極端に高い場所から飛び降りるといった、普段はラットが嫌うことをやらせたりするのに成功した。

(中略)

b ホモ・サピエンスに行なわれた実験は、人間もラットと同じように操作でき、愛情や恐れや憂鬱といった複雑な感情さえも、脳の適切な場所を刺激すれば生み出したり消し去ったりできることを示している。

【出典】ユヴァル・ノア・ハラリ著・柴田裕之訳

『ホモ・デウス(下)ーテクノロジーとサピエンスの未来』(2018年, 河出書房新社)

【設問1】

下線部 a 「そうした事実に関する言明」を筆者がどのように捉えているかを100字以内で答えなさい。

【設問2】

筆者が定義する「自由意志」の内容を100字以内で説明しなさい。

【設問3】

近時、下線部 b に記載された可能性を前提として、人体への応用が試みられ始めているところであるが、「恐れや憂鬱」をコントロールすることによって有益な結果をもたらすような活用方法を、筆者の主張する内容を参考に自ら考えて、200字以内で説明しなさい。

以上

## 2021 年度 創価大学法科大学院

### B 日程 小論文試験

#### 問題 2 (配点 50 点)

##### 【設問】

今、A さん、B さん、C 君が、新型コロナウイルス感染症拡大問題に対する対応策について、世間話をしている。以下の会話の中に出てくる情報をもとに、他の考え方を批判しながら、自分の意見を、理由を付して 500 字以上 600 字以内で述べなさい。

A さん：新型コロナウイルスの感染症の拡大が続いていて、政府の緊急事態宣言も 2 回目になり、自粛疲れで、私やんなっちゃう。こんな状況が今後も繰り返されるとなると、生活も大変。

B さん：そうね。私も同感。生活も、仕事も、旅行も自由にできないから欲求不満になっちゃう。

C 君：僕は、サッカーファンで、J リーグの試合観戦が一番の楽しみ。入場制限がかかっているからチケットが今までのように手に入らなくなってしまった。とても残念です。

A さん：このコロナ禍を脱して、感染拡大を収束に向けていくためには、日本国内の感染者数を毎日ゼロにするしかないと思うの。そのためには、PCR 検査を徹底的にすべきで、新型コロナウイルスに感染しているにもかかわらず無症状の者が感染源になっていると思うので、若者を中心とする無症状の感染者がどれだけいるか自分の周りの人がわかれば安心できると思うの。病院や高齢者施設のクラスターは、無症状感染者の若者が仕事をする中で発生していることが多いと思う。

B さん：でも、PCR 検査の料金は 2 万円くらいで高いんじゃないかった？こんな高い料金は誰が出して検査を受けるのかしら。こういう時程、国が全面的にその料金を負担する決断をすべきだと思うんだけど、どうかな？

C 君：僕は PCR 検査をみんなに受けさせるのは反対だな。PCR 検査の検査結果の有用性は、新型コロナウイルスが検出されなかったという結果が出ても、翌日には感染して陽性になっている人もいるんだよ。それよりも、集団感染というか、集団として抗体を持っている人間が増えれば集団免疫ということになり、感染することを恐れる必要はないと思うんだ。政策としてそうしている国もあるよ。感染を恐れるより、むしろ経済活動が停滞することの方が重大な問題だと思う。

A さん：C 君のいうことは極論よ。私はやっぱり感染は怖い。新型コロナウイルスに感染し

て入院したり、重症化して死に至ることもあるから怖いわ。欧米のように、買い物以外は外出制限をするロック・ダウンを日本もした方がいいのよ。不要不急の外出は控えましょうとか、「三密」を避けて、感染対策を自助努力でやればいいなんて、生ぬるいと思うの。病床数使用率は上昇しているし、医療崩壊という現実がすぐそこまで来て逼迫している現実をどうするんですか。

B さん : C 君の意見も、A さんの考えも両方とも極論。C 君のように、経済の再生だけを考えるのは良くないと思うけど、経済活動と感染対策をうまくバランスをとって出来ないかな？ Go to トラベルや Go to イートなんかは、感染対策を万全にすれば、あえて停止する必要はないと思う。居酒屋などの飲食を伴うところが感染拡大の一因となっている。居酒屋や食堂・レストランの時短営業でいいんじゃないかな？ サッカーや野球などのスポーツ観戦、コンサート、観劇なども入場人数を減らせばいいんだと思う。勿論、そのときも、飲食禁止、「三密」を避けることは徹底すべきだと思うけど。

C 君 : さっき言ったように、僕は、サッカー観戦が大好きだから、入場人数の制限などはして欲しくない。それよりも、日本経済の状態は心配じゃないの？ 新型コロナウイルス対策などの財源を確保するために赤字国債を通常年よりも多く発行しているけど、以前世間で言っていた、その年の国の歳入と歳出の金額のバランスをとるというプライマリーバランス政策はどうなっちゃうの？ コロナ禍が収束した先には、不景気という恐ろしい状況が待っているように思う。新型コロナウイルスで死ぬ人よりも、企業の倒産で自殺者が急増するおそれをどう考えたらいいんだろうか。

A さん : C 君のいう世の中の不景気はどうするんだということはわかるけど、新型コロナウイルス感染症の拡大を速やかに阻止することが、日本経済の再生や自殺者数の抑止につながると思わない？ 新型コロナウイルス感染症拡大の問題は、一つの災害であり、今は平時ではなく、有事・戦時と同じだと考えれば、命をまず守るところから考えなければならないと思う。国家の存在理由も国民を守ることではないでしょうか。有事・戦時の後の不景気は仕方ないこと、東日本大震災後もそうだったでしょ。関東大震災や第二次世界大戦後の日本がどうであったか想像してみてください。国民は一致団結して国の復興に取り組んだから現在の日本や世界があると思う。

B さん : A さんが言うように、医療崩壊、病床数使用率の上昇、医療の現場の悲鳴が聞こえてくるようです。医師・看護師不足の解消、保健所の人員不足の解消も、難しい。コロナで死ぬのか、他の病で死ぬのか、命の選択を医療現場は迫られているように思います。まさに、国難を、日本を含め世界の国々は経験しているわけです。

C 君 : 色々話してきて思うんだけど、この問題の解決策には正解がないということ。いろいろな問題があり、どうすればいいか、本当に迷ってしまうね。でも、最善の対応策を見つけなければならないことは確か。失敗しても仕方ないから思い切っ

てやる必要があると思う。さあ、どうしようか、ワクチンの開発競争が激化し、ワクチン接種を始めた国もあり、ワクチンが一つの希望だと思う。勿論、ワクチンの安全性が明らかに確認されたわけではないけど。ワクチンの副作用が今後問題になってくるかもしれない。

ともあれ、また、みんなで、この問題について話し合うことにしようよ。